

## 事業報告書

1. 事業名  
遺伝子組換え実験安全研修会
2. 事業目的  
文部科学省の方針に基づき、各機関のより良い遺伝子組換え実験安全管理体制構築に関する情報提供・情報交換および討論を行う。
3. 開催期間  
令和3年7月10日(土)13時00分~16時00分 (Zoom ウェビナー)
4. 主催等  
主催 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会  
共催 国立大学法人中国地方バイオネットワーク連絡会議  
後援 文部科学省
5. 参加機関  
国立大学法人 38校、私立大学 23校、  
国立研究開発法人・公益財団法人等 9機関、  
民間研究所等 21組織  
合計 91機関 参加者合計 272名
6. 事業概要  
【特別講演 1】  
13:00~13:30  
「カルタヘナ法について」  
文部科学省ライフサイエンス課生命倫理安全対策室  
  
【特別講演 2】  
13:30~14:00  
「新型コロナウイルスの組換え実験の実際」  
広島大学 坂口剛正 氏  
  
【シンポジウム】 「ゲノム編集作物の実用化と安全管理について」  
14:10~14:30  
「NBRP におけるゲノム編集生物の取扱い(特に残存核酸の有無)についての調査結果」  
広島大学 田中伸和 氏  
  
14:30~15:00  
「ゲノム編集技術を利用した GABA 高蓄積トマトの開発と実用化」  
筑波大学 江面浩 氏  
  
15:00~15:20  
「ゲノム編集生物後代における k-mer 法によるヌルセグリガントの証明」  
農業・食品産業技術総合研究機構 坂井寛章 氏

15:20~15:40

「ゲノム編集食品の取扱方針とその考え方」

農業・食品産業技術総合研究機構 田部井豊 氏

15:40~16:00

総合討論

今回の安全研修会では、前半でカルタヘナ法と新型コロナウイルスの組換え実験についてご講演いただき、後半のシンポジウムでは、実用化の進むゲノム編集作物について、安全管理の側面から関連研究者にご講演いただいた。参加者へアンケートを行った結果、今回のテーマについて、社会でも注目されている話題であり、講師の方の説明も分かりやすく大変有意義であったとの感想が寄せられた。

オンライン開催については、参加のしやすさから歓迎する声がある一方、質疑の方法は検討の余地もあるというコメントもあった。今後の研修会も機会があれば参加したいとの希望も多く、取り上げてほしいテーマに関しても多数の意見が寄せられた。